



# 学校だより



11月号

鳥取県立白兔養護学校  
令和6年11月12日発行

## 白兔まつり 大盛況！！

10月26日（土）、今年度も待ちに待った白兔まつりが開催されました。

コロナ禍で中断されていた同窓生や来賓の方々の参加、飲食イベントの実施等、5年ぶりの大規模な白兔まつりとなりました。

今年度のスローガンは「アイデアばくはつ！元気ばくはつ！～仲間とつながる 白兔の子～」。そのスローガン通り、各学部のアイデアと元気が爆発したステージ発表とアトラクションを、来場した方々にお楽しみいただけたのではないかと思います。

また今年度は、プレ白兔まつり（総練習）の在り方を見直し、全校児童生徒が一堂に会して他学部のステージ発表を見学する時間を持ちました。学部を超え、互いの頑張りを認め合うことで、「仲間とつながる」経験ができました。

久しぶりの大規模な開催で、運営面での課題は多く残りました。しかし、普段と違う環境の中で児童生徒が様々な人との関わりを楽しんだり、見通しを持って自分の役割に取り組んだりする姿が見られたことは、白兔まつりならではの収穫であると思います。反省点は来年度に活かし、今後もよりよい白兔まつりとなるよう教職員一丸となって取り組んでまいります。

なお、総来場者数（保護者・同窓生・来賓）は464名でした。多くの方のご参加をいただき心よりお礼申し上げます。

（白兔まつり実行委員会 杉山さやか）



全校で実施したエンディングイベント



飲食イベントは大賑わいでした



## 「共生社会」の形成に向けて



「共生社会」とは、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会です。文部科学省の報告においても、「共生社会」を目指すことは我が国において最も積極的に取り組むべき重要な課題である、とあります。

6月15日（土）に行われた本校の人権教育参観日講演会では、鳥取県障がい者スポーツ協会の山口雅彦講師による「あいサポート運動」講演会が行われました。「あいサポート運動」は、障がいのある方に対してちょっとした配慮等を行うことにより、皆が暮らしやすい「共生社会」を実現することを目的としています。講演会に参加された方にはバッジをお配りし、「あいサポーター」になっていただきました。事後アンケートには、「鳥取県発の運動で、全国に広まっているとは知らなかった。」「理解を深めて周りに声掛けしていきたい。」「できることを行動に移していきたい。」などの声が多数ありました。

また、10月4日（金）に行われたPTA主催の交流研修会では、地域の保護者を交えて、「地域で生きる」をテーマとした活発な意見交換が行われました。すべての子どもが共に「地域で生きる」ためには、連続性のある多様な学びの場が必要であることを強く感じました。この会の様子は、2月のPTAのお便りで詳しくお伝えする予定です。

本校としては、「共生社会」の形成に向けて、校内外へ特別支援教育に対する理解と啓発を進めていくことを大切にしています。教職員は、日々、子ども達が学習内容を理解しているか、達成感を持ちながら充実した時間を過ごしているか、生きる力を身につけていっているかを確かめながら教育活動にあたっています。そして、その特別支援教育の在り方は、決して一部の子どもたちのためのものではなく、すべての子どもたちに良い効果をもたらすものです。今後も本校から情報発信していきたいと思いますので、保護者の皆様、引き続き本校教育への御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

（人権教育主任 田辺章子）



「あいサポート運動」講演会